

大学事務職員を対象とした 学習支援職能開発プログラムの基本設計

Design of staff development program to acquire specialty of learning assistant role
for administrative staff in higher education institutions

野田 啓子, 渡邊 あや, 合田 美子, 鈴木 克明

Keiko NODA, Aya WATANABE, Yoshiko GODA, Katsuaki SUZUKI

熊本大学大学院 教授システム学専攻

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

くあらまし> 大学を取り巻く様々な状況の変化にともない、大学職員の業務は、従来の事務領域を越え、学生生活支援、就職などの課外活動支援や、学生の学習そのものの支援領域へと広がっている。しかし、大学職員が学習支援職務を担う際に必要とされる職務力量を身につけるための職能開発プログラムが実践されている例は極めて少ない。本研究では、大学事務職員を対象として、学習支援職務を初めて担当する者を対象としたeラーニングによる職能開発プログラムの基本設計とプロトタイプ開発を行った。

<キーワード> インストラクショナルデザイン 教材開発 人材開発 高等教育
スタッフ・ディベロップメント eラーニング ADDIE モデル

1. はじめに

グローバル化が進み、知識基盤社会へと移行する中で、日本の高等教育機関は国際水準の教育の質保証を行う重要性が高まっている(小貫 2010, 中井・齋藤 2007)。教員の職能開発に加えて、大学の管理運営および教員の教育研究活動を支援する大学職員の職能開発についてもその必要性が指摘されるようになった。

文部科学省(2008)は、大学職員の職能開発においては、「新たな職員業務として需要が生じてきているものとしては、インストラクショナル・デザイナーといった教育方法の改革の実践を支える人材が挙げられる」として、従来の事務管理のみならず、教育に関する専門性を有する新たな職員像を提示した。しかしながら、多くの大学においてはインストラクショナル・デザイナーとしての専門性を持つ職員の育成や配置が積極的に行われているとはいえない状況にあり、学生の学習支援職を担う職員においても、教育学や教育心理学といった知識等の専門的トレーニングの機会が極めて少ない。

本稿では、学習支援職務に焦点をあてて、eラーニングによる大学職員向け専門的トレーニングの基本設計とプロトタイプ開発を行った。

2. 基本設計

本プログラムは、学習支援職務を初めて担当する大学事務職員を対象としたeラーニングによる職能開発を目的として、職員自身がその課題を克服するための具体的なアクションプラン別に学

習目標、課題分析、指導方略、評価方法を提示し、それらをコンテンツ化し、eラーニングで提供するものである。本プログラムの基本設計は、ADDIEモデルを用いて次のような構成で行うこととする。

2.1 ガイドラインの提示(学習目標の提示)

学習支援職務を初めて担当する大学事務職員に求められる力量、知識について、大学で日常的に学生と職員が対応する事例(ストーリー)をもとに、ガイドラインを提示する。ガイドラインの項目は、職能開発プログラムの学習目標として用いる。本研究では、学習目標として「学生の学習と発達を支援し、促進するカウンセリングの実施」というガイドライン項目を用いることとする。

2.2 ガイドラインに即した行動内容の提示

上記のガイドラインで示された内容を満たすために職員が取るべき具体的な行動として、次の3点を設定する。

- (1) 学生の学習実態を把握するために必要なリソースを入手することができる
- (2) 学生が学習にあたって必要としている支援を設計・提案できる
- (3) 学生が支援を受けた後、課題の解決に至ったのかを検証できる

これらはすべて「～できる」という表現とし、「理解する」「知っている」など、自らが、また、他者から見て客観的にわからない状態を評価す

るものではなく、具体的な行動を取れるかどうかを評価できるような形にする(鈴木 2002)。

また、これらの行動に至るまでの過程を課題分析表の形で提示し、学習の順序について分析した上で、学習目標と課題分析に基づき、指導方略を検討する。

2.3 具体的な行動内容が遂行できているかどうかのチェックリスト

上記2.2で提示した内容をチェックリストとして提示し、「よくできた」「できた」「あまりできなかった」「できなかった」の4段階で評価する。

3. 学習支援機能開発システム(案)

前述のガイドライン(学習目標)を達成するために、1時間程度で学習ができるeラーニングのプロトタイプを開発し、形成的評価を実施する。

学習支援機能開発システムの概要は、図1に示す通りである。

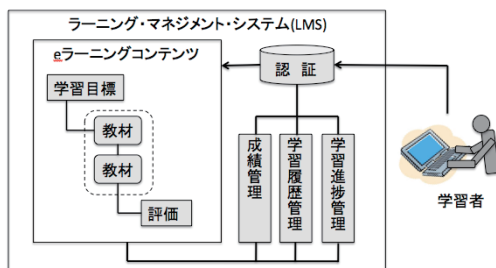


図1 学習支援機能開発システムの概要

3.1 職能開発支援システムの概要

学習支援機能開発支援システムは、学習管理システム(LMS)を用いて、ユーザ認証、学習進捗管理、学習履歴管理および成績管理を行うeラーニングとする。

eラーニングコンテンツはテキスト(文章)を基本とし、動画は用いない。本システムは、現職の大学職員を対象としており、勤務時間中にパソコンで動画を閲覧すること、音声を開くことが困難な環境であることが想定される。また、テキスト(文章)であれば、ダウンロードや印刷して通勤時間などを利用した閲覧・学習が可能になる。

コンテンツは学習目標および教材、教材を用いて学習した結果、内容を理解したかどうかを確認するテストや、また、内容に関する行動を遂行することができたかどうか、といったタスクチェックが実施できるようにする。

このLMSは構内LANなど特定のネットワークに接続された端末からのみアクセスを許可する

ものではなく、ID・パスワード認証を行い、インターネットを通じてどこからでもアクセスができるようにする。将来的には、大学の壁を越えて、他大学の事務職員にも広く学習の機会を提供することを検討している。

3.2 プロトタイプ画面(Moodle)

本システムのプロトタイプ画面は図2に示す通りである。オープンソースLMSのMoodleを用いて開発を行っている。



図2 学習支援機能開発システムの画面例

4. おわりに

今後は、職員へのアンケート等を通じた学習支援業務に携わる大学職員のコンピテンシーガイドラインの精査を実施し、提案の妥当性を高めてより現実に即した職能開発を実現する学習支援機能開発システムに近づけて行く。

本システムのプロトタイプについて、筆者の所属機関において実際に初年次教育、アカデミック・アドバイジング、ラーニング・コモンズの実務に携わる職員に協力を求め、形成的評価を実施し、実際に利用した成果や感想を集約し、必要な点について随時修正を加えていくこととしたい。

参考文献

- 文部科学省(2008) 学士課程教育の構築に向けて(答申) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
- 小貫有紀子(2010) 米国高等教育における学生担当職員の専門職能開発(PD)の体系化. 高等教育研究 13:81-100
- 鈴木克明(2002) 教材設計マニュアル-独学を支援するために-. 北大路書房, 京都
- 中井俊樹, 齋藤芳子(2007) アメリカの専門職団体が描く学生担当職員像-学生担当職のための優れた実践の原則-. 高等教育研究 7: 169-185